

委員会発議案第1号

防災対策の充実を求める意見書

上記の議案を別紙のとおり、会議規則第13条第2項の規定により提出します。

平成29年11月24日

鈴鹿市議会議長  
野間芳実様

提出者  
文教環境委員会  
委員長 石田秀三

(提案理由)

国に対し、子どもたちの安心・安全を確保するため、巨大地震等の災害を想定した防災対策の充実を図るよう要請するため。

## 防災対策の充実を求める意見書

平成 25 年 3 月の「南海トラフ巨大地震の被害想定 (第二次報告) 追加資料」によると、南海トラフで発生する巨大地震による鈴鹿市の最大震度は 7、津波の高さが最大 6 m と想定されている。また、平成 26 年 3 月の「三重県地震被害想定結果 (数表等)」によると、早期避難率が低かった場合の最大死者数は約 1,800 人、1 か月後の最大避難者数は約 84,000 人にのぼるとされている。

平成 23 年の東日本大震災、平成 28 年の熊本地震では、多くの学校が避難所となった。特に屋内運動場は、避難された地域住民の一時的な生活の場となるなど、重要な役割を果たしている。

鈴鹿市では全ての小・中学校施設の耐震化は確保されているが、その中で、4 か所の屋内運動場は、いずれも建築後 40 年以上が経過しており、経年劣化による老朽化が顕著で、早急な改築が必要となっている。

災害時においては、子どもたち及び地域住民の安全確保は極めて重要であり、その中で、巨大地震等の災害に対応できる屋内運動場の整備など、防災対策の充実が急務と考える。

現在の公立学校施設整備の屋内運動場の改築に係る国庫補助率は 3 分の 1 だが、当該国庫補助率を上乗せするなど、防災対策の拡充をすすめることを強く要請する。

以上、地方自治法第 99 条の規定により意見書を提出する。

平成 29 年 11 月 24 日

鈴鹿市議会議長 野間 芳実